

にし西

■編集

西区役所総務企画課広聴係 〒063-8612 西区琴似2条7丁目1-1

TEL 641-2400 内線224~226 FAX 641-2405

◎西区広報番組「西区情報プラザ」FMラジオ三角山放送局76.2MHz
毎週月曜日午前11時～

◎西区ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/nishi/>

◎区民のページ 2005・12



まちの人



パティックの作品を制作している

ちびき
千引 えみこさん(56)

パティックとはインドネシア語の「たくさん」と「点」という言葉を組み合わせた造語。インドネシアのジャワ島付近で作られる、多彩な伝統的模様をろうけつ染めした綿布(ジャワ更紗)のこと。布地に鉛筆で下書きした後、チャンティンという道具を使ってろうで線を引き、染めて水洗いし、乾かすという作業を繰り返して作る。

ギャラリー紹介の記事を読んで、個展を見に行ったのが、パティックとの最初の出会いだ。話すのは宮の沢在住の千引えみこさんです。特に色の鮮やかさに強く引かれたそうです。その場に居た作家中田ゆう子さんと話をし、後日、中田さんのアトリエを訪ねてパティック制作を体験したところ、思いのほか夢中になってしまったと語ります。高校時代美術部に所属し油絵を描いていた千引さんは、道展で特選に入賞した経歴の持ち主です。卒業後は銀行に入行し、その後は結婚、子育てのため絵を描くことから



■千引さんの最近の作品「ランとバラ」

鮮やかな色合いに夢中です

遠ざかっていました。しかし、この間も個展を見に行くだけでなく、高校時代の仲間が開く個展を手伝いながら「いつかは自分も」と思い続けてきました。子育てを終え、時間もできたので植物画などを習っているうちにパティックに巡り合い、念願の個展を開くこともできました。制作には独特の粘りがあるインドネシア産のろうを使うているため、慣れないころはろうの特性が分からず、思わぬ所に落としてしまうこともあったといいます。そんなときは「心臓が止まるくらいびびくり」していたのですが、最近では思いがけない偶然を生かして制作するのを楽しみまでなっています。最後に完成した作品を構想段階から選んでおいた額縁に入れるのが一番楽しみな瞬間。ご自身も絵を飾るのが好きで、個展に来た友人が千引さんの作品を飾るために買ってくれたのは本当に励みになったと語ります。「今思えば個展は早すぎたんです。まだ習っている身ですから」と千引さん。現在は伝統的な技法を習いながら集大成としての個展を夢見て制作に没頭する毎日です

区民のページで取り上げてほしいテーマなど、皆さんからのご希望やご意見をお寄せください。はがきファクスEメール nishi@city.sapporo.jp 西区総務企画課広聴係(上欄)へ。